

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム杉の木 2F	評価実施年月日	平成19年8月2日～
評価実施構成員氏名	理事長 光銭健三 管理者 菊地スミ子 計画作成担当者 菊地スミ子 菊地文明 看護師 菊地真実 介護職員 木元智賀 片石恵利子 岸きみ子 田中秀明 早川三恵 南部啓子		
記録者氏名	菊地 文明	記録年月日	平成19年8月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念について全員で話し合い充実に向けて取り組んでいます		開設間もない施設だが、入所者、ご家族地域に密着し必要とされる施設になるように追求していきます
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム会議や日々の生活の中で随時話し合いを持ち、理念を基本に努力しています		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時の際運営の理念をお伝えするとともに、ご家族、来客の方々の目に触れるようにホーム内に掲示し、理解していただけるよう努めています	○	地域の集まりやイベントに参加していきたい。ホームだよりをご家族に送付していますが、地域への配布は検討中です(プライバシーの配慮から)
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出などで挨拶を交わしたり、お花を頂いたりしたり近所の方と接する機会は増えてきています	○	町内会行事などへの参加、ホームで行っている行事への参加を通して関係を深めていけるよう努力していきます
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の催事にはなるべく参加しているが長時間では疲れてしまう方が多く負担の範囲で参加しています		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域ケア会議に出席し町内で困っている方達に事業所で培ってきた成果を地域高齢者ケアサービスの推進に還元しています	○	地域の方々と介護予防や認知症の理解、接し方など、地域ケア会議で話し合いを行っています

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		評価の結果を元に改善や向上のため具体的に検討し実践していきたいと思います
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	今後も会議の場で施設のあり方について地域の理解と支援をいただけるよう努力していきます
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した際それらの制度を活用するため関係機関との連携が図れるよう準備します
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	○	ホーム会議で折に触れ話し合う事とし、講習会の参加、学習会の開催を実施する
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		今後も十分な時間を取ってご家族と相談しながら実施していきます

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々のコミュニケーションを通じて、何でも言える関係作りに努めています。また表情、行動の変化をも落とさないよう職員間の話し合いを持ち速やかな対応ができるように心がけています		入居者の言動からその思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心がけています
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	個別にお手紙や写真を送ったり、面会時に日々の状態を報告しています。今年度はホーム便りの中でお知らせしています。面会になかなか来られない際には電話や郵送で報告しています。金銭管理に関しては自費購入記録、個人収支記録に記載し、家族に確認していただいています	○	それぞれのご家族と連携を密に取りながら些細なことでも話し合える関係作りと、面会時等の報告を怠ることなく実施していきます。またホーム便りの定期的発行を行うことにより安心して利用していただくよう努めていきます
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	正式な苦情の窓口を設けており、何でも行ってもらえるような雰囲気留意しています。出された意見要望に関してミーティングで話し合い反映させています		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はできる限り職員と同様に入居者の状況の把握に努め生活記録の確認、申し送りの際の意見や相談を聞き全職員に伝えるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています		日常的に職員が自由に意見や考えを述べることができ、それに対し適切な助言・指導・援助を行うことで意向を反映した運営ができるよう努めています
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	不足の場合は迅速に対応し、その時々状況に合わせて支援できるような体制になっています		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット毎の交流をこまめに図りスタッフが気軽に行き来できる環境整備に努めています		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	他事業所へ見学などの相談をし、互いに行き来できる様な関係作りをしていきたいのだが、遠距離のため実現は難しいです
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		勤務時間中にも気分転換を図れるよう小休止したり会話できる機会を設けています
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。		入所後も安心して生活が送れるように本人のペースを把握しご家族や関係される方とも十分話し合い、理解と協力を得る体制をとっています
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○	話し合いや手紙での状況報告やホーム便りの発行を継続し、本人、ご家族の思いを共有できるように努めます

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必ず本人の状態を報告し、本人やご家族の希望に添えるように病院受診、主治医の変更等様々な対応を行っています	○	今後も本人の様子を伝えご家族とともに何が必要か、どうしたら良いかについて話し合い、他事業所との連携を密にしてい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に見学や遊びに来られたり、ご家族や馴染みの方の協力を得、本人が安心できるように配慮しています		馴染みの関係ができるまでには時間がかかります。ご家族や関係する方々の協力を得ながらお互いの信頼関係を築いていきます
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活し、話を聞いたりして喜びや不安を知ることにより互いに支え合える関係作りをしています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	負担にならないよう配慮し、必要に応じてご家族に協力していただき、助言を受けるなどしそれぞれの役割を持って本人を支援しています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	入所前は認知症が理解できず不仲であったご家族が入所されたことにより少しずつ理解され今までの関係が解消されてきつつあるケースがあり、お互いに大切な存在であることを再認識し満足感が生まれつつある	○	これまでの関係をふまえてよりよい関係を築いて行けるよう支援してい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人が面会に来られたり、ご家族が本人の馴染みの場所に外出に連れて行ったり、月命日にお寺に行くなど継続的な交流ができるように働きかけています	○	本人の馴染みの場所や関係を大切にし、協力・支援を行っていきます

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	懐かしい食べ物、音楽など本人が過ごしてきた生活が思い起こされるような取り組みをしています		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後もご家族が馴染みの入所者に面会に来られています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話やご家族の話などから生活習慣、性格を把握し、本人の個性を尊重できるよう努めています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に家族からできるだけいろいろなことを聞き取り、入所後も面会に来られる方々からも個人についてお話しをすることで以前の生活の把握に努めている	○	ご家族が本人の生活歴、趣味、趣向をほとんど把握できていないケースも多く、本人から得る情報も少ないですが日々の会話や過ごし方から以前の生活を把握するようにしていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の生活リズム、心理面の変化ををご本人の記録として記録し、スタッフで話し合うことで現状の把握をします		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のホーム会議が介護計画のモニタリングやカンファレンスの場となっています。スタッフが聞いた本人、家族の要望を取り入れ次の計画に反映させます	○	よりよい生活を送るためサービス提供を随時評価することで新たな課題、ケアの方法の変更に取り組んでいます

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	記録から状態、状況の変化が見られた場合には随時見直しを行い、本人、ご家族の要望を伺い現状に沿った介護計画を作成していく		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者それぞれのファイルを用意し、身体・精神的状況他暮らしの様子、利用者本人の言葉等を記録している。		いつでもスタッフが確認できるようにしています
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の希望、要望に応じて通院、送迎、外出等必要な支援に柔軟に対応し満足できるよう努めています		主治医と緊密に連携を取ることでホームでの往診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など緊密な協調体制を心がけています
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人と地域との様々な接点を見いだせるよう、周辺施設へ働きかけやボランティアへの協力を呼びかけています	○	関係機関と協力、支援することで安心して生活が送れる事ができるよういつでも取り組める体制を整備します
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望により訪問理美容サービスの方に来ていただき、利用しています		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を定期的開催することで情報交換、互いに協力、支援ができる体制を整えています		



		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人、家族と相談し、希望の医療機関を利用し、家族、かかりつけ医、ホーム間での報告連絡相談を密にすることで適切な対応を行っている	○	救急の受け入れ、往診、休日診療、電話での指示、紹介状を持って専門病院の受診支援など医師の協力のもと適切な対応を心がけている。今後も本人や家族が安心できるよう支援していきます
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	個々の希望や症状によりかかりつけ医が異なり専門医ではない場合が多いが随時相談をし適切な助言をいただいています		ホームとして相談、助言を受けご家族へ伝えたり日常業務に取り入れる等しています。希望時は専門医へ受診していただきます
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており看護師を中心に健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしています		主治医、看護師がより細かく利用者の健康管理を行い、本人、ご家族が安心して生活を過ごせる様努めています
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には看護スタッフが付き添い医師に必要な情報を正確に提供しています。また入院中もスタッフが見舞う様にし、本人、看護師から話を聞いたりすることで現状を把握し退院後のケアに結びつくようスタッフ間で連絡を取り合っています。		入院時は速やかに家族に連絡し、医師、家族、スタッフで相談することで早期退院に向けて協同体制を取っています
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医や家族、本人と十分に話し合い方針を共有し、状態の変化がある毎に報告、相談しています		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医、看護師を中心に本人が本人らしく過ごせるためにチーム全員で話し合いを行い支援しています		利用者本人が最後の時まで望むケアを受けられるように支援しています

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	現在まで移り住むことを希望している方はいませんが、今後の対応として家族の同意の上、新しい担当者に情報を詳細に伝えできるだけ継続した介護が行われるよう移動後も相談や確認など連携を取っていきます		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の尊厳を守るように配慮し、理念にも掲げスタッフに周知徹底しています		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活のいろいろな場面で、利用者各自が自分で決める場面を作るようにしています		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な日常の流れは決められていますがその人のその日の体調、気分に合わせて、自らのペースに合わせた生活が送れるように個別に対応をしています		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみは基本的に本人の意思決定で行い、場合によってはスタッフが本人の意思を軽んじることの無いようさりげない支援をしています		理美容院の出張サービス、化粧品の買い出し等を希望により行っています。
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人や家族から食事の好みを伺い、献立を考えています。個々の状態にあわせ味付けを変えたり、食事形態を変えて提供しています		調理の下ごしらえ、味見、盛りつけ、配膳、後片付け等も手伝いいただいています。誕生日には誕生者の好きなメニューを取り入れています。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人や家族から好みの食べ物や飲み物を伺いできるだけ提供できるようにしています。当ホームでは施設全体が禁煙となっており、入所の際は必ずその旨を伝え確認していただいております		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の状態にあわせ日中はリハビリパンツ、パット、トイレ誘導、夜間はオムツを使用することによりできるだけ快適な排泄になるよう支援しています		羞恥心に配慮した支援を心がけています
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を優先し、気が進まないときは無理せず時間、もしくは曜日を変えて支援しています		プライバシーに配慮するとともに安全に注意して落ち着いて入浴できるよう取り組んでいます
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状態、長年の生活リズムを考慮し、できるだけ生活リズムを整えるよう支援している		気分が落ち着かないなどで夜間眠れない利用者にはスタッフが付き添い対応しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人にあった役割を見つけ、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えていく。		料理の下ごしらえや、掃除、縫い物、カラオケなどそれぞれが得意とする楽しみを支援しています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望に応じ家族と相談の上ほとんどの金銭は施設にて厳重に管理している。		買い物の際は本人で金銭管理を行っています

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	帰宅願望の強い利用者はいませんが、気分転換に散歩など近所の外出を勧めても拒否されてしまうことがあります		買い物を希望されたとき個別にスタッフと買い物に出かけたり、私物を取りに自宅に行ったりしています
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望により花見、祭りなどのイベント時、お墓参りには利用者とスタッフ、または利用者と家族で外出しています		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分でできる方もいますが、個別の状況に合わせスタッフが電話をかけたり、手紙を代筆したりしています		今後も希望に応じ支援していきます
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	早朝、夜間は併設する施設の門限のため訪問できませんが日中はいつでも訪問することができます。居室やリビングでくつろいでお話いただけます		スタッフに対して特別な心遣いをなさらぬようお伝えしています
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	家族の希望により夜間のみ拘束衣を着用される入所者がいらっしゃいます。(胃瘻部抜去の危険)また事情により身体拘束が必要な場合には家族に事情を説明し同意書にサインしていただいております		身体拘束の事例もあり、これらに関する講習、勉強会に参加し、認識の共有化を図っています
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間～早朝のみ施錠し、日中は鍵をかけることはありません		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中のさりげない見守りや個々の状態により家族の相談、同意を得て居室にモニターカメラを設置し、夜間利用者の状態の変化にいち早く対応できるようにしています		夜間の巡視は本人の居室を訪問しモニターに頼らないようにしています
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁は夜間のみ保管、管理しています。入所時には大きなハサミと果物ナイフなどは持ち込まないようお願いしています		刃物を使う際にはスタッフが側について見守り、支援しています
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ホーム会議、カンファレンスで想定される事故に対する対応、防止策を検討しています		事故発生時には事故報告書をまとめホーム会議やカンファレンス時に報告し事故の再発が無いようにスタッフ全員で検討しています
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時には看護師、医師に連絡し迅速な対応が行われている。また医師の指導の元応急手当やAEDの講習会を開き緊急時に対応できるよう努めています		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行い避難の方法を検討している		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の面会時は変化ある毎に状況を報告し、起こりえる危険についての認識を共有しています		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	状態の変化を見逃さないように注意し変化が見られたら看護師、管理者に報告し、場合によって医師の判断を仰ぎます		日々の定期的なバイタルチェック以外にも状態変化時はバイタルチェックを行い、記録しスタッフ間で情報を共有しています
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	本人で服薬管理をできない方が多く、スタッフが服薬管理を行っています。利用者毎に薬箱があり服薬時にはスタッフが付き添い、見守り、確認することで飲み忘れや誤飲を防止するようにしています		利用者個々の薬の処方箋をそれぞれのファイルにはさみ、全スタッフがいつでも確認できるようになっています。処方の変更時は状態の変化をチェックし、記録を医師に提供しています
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	便秘がちな利用者には牛乳や水分補給などを十分に行い自然排便を促すよう努めていますが、それでも困難な場合には服薬にて調整しています		服薬時は主治医と連携を取り相談しながら行っています
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	モーニングケアとナイトケア時の歯磨き、義歯の洗浄は声かけ、一部介助で行っています		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれの摂取量や飲水量の記録を活用して嗜好を把握し、献立に取り入れています。		疾病の為食事の管理が必要な方は主治医より指示をいただき支援を行っています
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、利用者全員毎年インフルエンザの予防接種を受けています。食事の前に利用者は手指の洗浄を行っています		感染予防のためペーパータオルを使用しています。毎日施設内清掃の際は塩素系の洗剤にて主に手すり、ドアノブ他拭き掃除を行っています
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、おしぼり、ふきんは漂白、消毒を行っています。食材は一度で使い切れる量で購入し食材が新鮮なうちに提供できるようにしています		冷蔵庫を設置している利用者は定期的に庫内の飲食物を確認しています

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前は狭くつろげるスペースがないが、季節に合わせて門松、正月飾りや七夕飾りなど用意しています	○	テーブルやベンチなど設置できないか検討していきます
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、食堂は明るく開放的な空間で、心地よく過ごせるようになっています。談話室には掘りごたつを用意したたみの感触を味わえるようになっています		まゆだま、ひな飾り、すすき、お月見、七夕飾りなど施設内の装飾、おせち料理や彼岸の手作り団子、土用の丑の日にはうな井など、季節感を取り入れる工夫をしている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	今のソファの設置場所を工夫し利用者が自由にお昼寝をしたりされています。食堂も食事以外に新聞を見たり縫い物など軽作業をするときに利用しています	○	状態に応じて過ごしやすい環境作りに努めていきます
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時にはできる限り馴染みの物を持ってきていただくようお願いして使い慣れた物に囲まれた生活を送っていただけるように配慮しているが、困難な方には施設から家財道具を貸し出し本人と相談しながら配置しています		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	必要に応じて随時換気を行い、利用者の状態を見ながら調節しています		トイレは換気扇と消臭剤を利用し悪臭を抑える工夫をしています
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共同生活空間には手すりが設置され、安全に配慮するとともに見守り、声がけなどさりげなく支援を行っています		

		<p style="text-align: center;">取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)</p>	<p style="text-align: center;">○印 (取組んで きたい項目)</p>	<p style="text-align: center;">取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室前には家族の同意を得て表札と写真を設置しています</p>		<p>それぞれの状況を見て、必要ならば見守りや声がけを行い混乱や失敗のないように支援しています</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>小さな花壇に少しの野菜とお花を植えています。時々水やりや草取り、収穫に行き楽しんでいます</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ○③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

健康管理 手作りの食事、季節感ある食事の提供